

# ネットワーク連絡会 会議要旨

日時：平成20年6月25日(水) 午後6時～8時  
会場：しんじゅく多文化共生プラザ 多目的スペース  
参加者：25人

## ～開会～

区：＝＝議事の進め方の確認＝＝

## ～新宿区 新規異動職員の紹介～

＝＝新規異動職員の挨拶＝＝

## ～新規参加団体の紹介～

A：ホームパーティーを定期的を実施し、日本人と外国人が楽しくご飯を食べながら交流しています。外国人の方は日本文化に触れ、日本人は外国語で話す機会を提供するようにしています。そのなかで外国人や日本人のコミュニティを再生していくことを目的としています。そのほかにも子育て支援などもしています。シェアハウスを実施していて、地域に開かれたホームパーティーなどを実施して拠点となるようにしていきたいです。

## ～しんじゅく多文化共生プラザの実績報告について～

区：＝＝プラザの利用人数や相談件数などを説明＝＝

## ～新宿区多文化共生実態調査の報告について～

区：＝＝調査結果の概要を説明＝＝

## ～意見交換～

B：現状を踏まえたうえで、今後の考察のために指摘したいのですが、調査の中に、外国人がどの程度しんじゅく多文化共生プラザ(以下「プラザ」)を知っているか、利用したことがあるかについて聞いている設問がありますが、今回の資料に盛り込むべきだったと思います。

調査を行って初めてプラザを知った外国人が65.8%という結果なので、もっと周知が必要だと思います。外国人に対してプラザの存在を必ず伝えて、1回

は必ず来てもらって、自分たちに必要な情報を得てもらうようにできるとよいと思います。

私たちもネットワークの一員として積極的に周知していく必要があると思います。

区：プラザの開設された17年度と比べると利用者数は約2倍と伸びていますが、まだ広く知られていないというのは調査結果の通りであると思います。このことは議会でも取り上げられていまして、もっと多くの人に知ってもらえるように努力するように指摘を受けています。具体的には、外国人登録窓口を活用するなど、いくつか工夫していきたいと思っています。皆様にもプラザのPRにご協力いただきたいと思っています。

C：私はプラザの日本語学習コーナーで活動するSNNのメンバーになっていて、プラザを多く利用している者の一人です。月曜日の「にほんご・かんじ」を担当していますが、最近参加される外国人が非常に増えています。プラザが拠点となり、ひらがなから、漢字、コミュニケーションという外国人の日本語学習に広く活用できていることは評価できると思います。

最近、外国人の子どもの学習の遅れが課題の一つとなっています。プラザはこれまで大人向け中心でしたが、小中学生の勉強のスペースを作り、子ども向けの資料や教材も充実させればよいと思います。

子どもたちも一緒に学習できる場になれば、ますます広く開かれた施設になると思います。また、日本人の子どもたちも活用するようであれば、さらに交流なども生まれてくると思います。

D：私は週1回、タイ語の相談員としてプラザに来ています。最近利用者が多く来ていて、子どもの居場所がありません。先日も子ども連れの方が来て、母は多目的スペースの中で日本語学習していたのですが、子どもは部屋の外で遊んでいました。絵本やテレビを見ることができる子ども用のコーナーがあれば、子どものいる母親も安心して日本語を学べると思います。

また、場所が場所なので、来ることができない人もいます。いくら日本語を学びたくてもプラザまで上がってこれない人もいます。またそういった人こそ日本語の学習が必要なのだと思います。

アンケート調査を行ってはじめてプラザを知った人が多いということなので、調査を行ったことはプラザの周知になったと評価できると思います。調査がきっかけで電話相談を利用した方もいました。

区：アンケート調査を行ったことでプラザを周知できたことは非常に大きな効果であると捉えています。

また、プラザの入口近くにパソコンが置いてありますが、現在故障しています。パソコンについては、定期的に同じ人が利用していることが多いという報告も受けていますので、パソコンを撤去して、レイアウトを変更し、そのスペースを有

効活用できるように検討したいと思っています。

D：パソコンは必要だと思います。家にパソコンを持っていない人は、最新の情報を得る機会が不足しているので、修理していただければと思います。

区：外国語版ホームページについては、平成20年5月のアクセス数は4言語の総計が約17万件となりました。

E：私どもの団体は約40年間新宿区で活動しています。外国人が町の中で抱えている悩みや相談に対応しています。多文化共生実態調査ということで、新宿区は地域の抱える問題を「多文化共生」をキーワードにしてきれい事に行っていると思います。大久保・百人町地域では混雑・混乱しています。新宿区には本当の外国人の実情を把握して欲しいと思います。

F：多文化共生という言葉は非常にわかりやすくよいと思います。

## ～多文化共生事業の提案について～

### (1) 外国人生活スタート応援事業について

区：＝＝事業の概要を説明、分科会への参加依頼＝＝

### (2) 多文化防災について

区：＝＝これまでの活動・成果及び今後の取り組みを説明＝＝

### (3) プラザ3周年記念の取り組みについて

財団：＝＝パネル展、理解講座の説明、協力依頼＝＝

### (4) その他

区：現在、協働事業で実施している子どもの学習支援について、どのような状況なのかご報告いただけますでしょうか。

C：大久保児童館と榎町児童センターで実施している子どもの学習支援については、協働事業2年目を迎えました。中学3年生が増えていて、高校進学に向けて、中学3年生のみを対象に土曜日に特別に受験対策をしています。基本的には子どもたちにまず日本語を覚えてもらいます。そのうえで、学校での授業についていけるようになってほしいと思っています。学校での勉強のなかで、日本語がわからないために問題が解けない子どもが多いことが課題になっていますが、関係者の方の協力を得て実施しているところです。

G：私たちは、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援とメンタルサポートを週2回行っています。高校受験を控えた中学3年生が非常に多くいます。傾向とし

ては、来日して間もない子どもたちが非常に増えているので、日本語の勉強プラス教科学習をしなければならず、多くの子どもが進路について不安を抱えています。会員が自分たちの経験に基づいて、相談を受けたりアドバイスをしたりしています。子どもたちのなかには家庭環境が複雑な場合も多いので、大変だなと思います。子どものサポート依頼は増えているのですが、なかなかボランティアする会員が増えないので、手厚いサポートを行うことができない状況にあります。

区：現在、学校での日本語学習は満足にできているのでしょうか？

H：大久保小学校の場合は、日本語国際学級が併設されています。教員が3人配置されているので、他の学校より手厚いサポートを行っていると思います。現在42名の子どもが国語の時間に日本語国際学級に行き勉強しています。来日して間もない子どもは入門期として日本語の基礎を学びます。その後、初級、中級と、上達度に合わせて約2年で日本語の習得を修了します。2年経っても中級を修了できず引き続き指導している子どももいます。国語の時間なので週5・6時間で、その他の授業は教室の中で勉強します。入門期の子どもも日本語で行われる算数や社会の授業は教室で受けることになるので、理解できないという状況もあります。それとは別に入門期の子どもには日本語適応指導の時間が年間50時間あります。また、今年度から教育センターで基本的に中学生を対象として日本語クラスを実施しています。

## ～ 意見交換 ～

区：外国人生活スタート応援事業、多文化防災について分科会への参加を提案いただきましたが、ご賛同いただけただということでもよろしいでしょうか？

参加者：(同意)

D：防災についてですが、これまでも多文化防災訓練等を実施してきましたが、外国人がなかなか参加してくれないのが現状です。防災訓練に外国人のための無料健康診断を盛り込めば、参加する外国人は増えると思います。

区：今までのように防災訓練を実施するだけでは不十分だと考えています。さらに効果的に防災についての知識を深めてもらえるよう分科会で提案・検討していきたいと思います。

D：病気についても深刻な問題です。最近結核が流行っていて、早期発見が必要です。日本人の場合は、保険があるのですぐに病院に行けますが、外国人のなかには保険がなく、病院とは縁の無い人も多くいます。医療ボランティアなども活用して防災訓練等に組み入れることができたらよいと思います。次の多文化防災訓

練は柏木地区で行うのですか？

区：まだ決まっていません。地域ごとの避難所管理運営協議会との調整も必要になります。

区：地域の方々と協力して、大久保地区で実施することも検討していきたいと思えます。

I：職安通りと大久保通りはご存知のとおり韓国の食材店やレストランなどが増えていて、日本人客が多く来ています。韓国の食材の買い物をして、韓国料理を食べ、お土産を買って帰る人が増えていて、大久保が観光地化してきていると思います。このような状況の中で、町の地図が無いことが困ります。観光客はネットから地図を打ち出して来るのですが、結構わかりづらい地図が多いと思います。新大久保駅には地図があるのですが、他には無い状態です。なるべく早いうちに地図が必要だと感じています。

大久保に来る人の多くは、イメージとして韓国(コリアンタウン)だと思っていますが、ミャンマーやタイの店もあるので、関心を持ち、リピーターになる方もいます。そういう人は町を探索したいと思っています。そのような人が一番困ることは町に公衆トイレが無いことだそうです。食事目的ならレストランに入り、トイレにいけますが、そうでない人は困るのだということです。

J：外国人生活スタート応援事業という名前についてですが、「外国人のための日本生活スタート応援事業」のほうがよいと感じました。

事業としては外国人のためのサポートに力を入れていただいとてもうれしく感謝しています。ただ、作っても外国人が見なければ無駄になってしまうので、作ったら渡すだけでなくもっと積極的に周知活動を展開していく必要があると思います。

外国人が外国人に日本の生活ルールを教えることが有効だと思っています。韓国人のための日本生活説明会を実施したいと思っていますので、新宿区にもご協力いただければと思います。

また、新宿区には多くの国籍の外国人が住んでいるので、日本で生活している先輩の外国人が新しく来日した外国人に対して積極的に説明会などに取り組むことが必要だと思います。

K：スタートブックについては、ミャンマー語についても検討してくれるということとありがとうございます。

A：初めて参加しましたが、とても有意義な時間でした。ホームパーティーなどを実施して、コミュニティを再生しながら、外国の方が日本文化に溶け込んでほしいという気持ちで活動しています。

Jさんがおっしゃっていたように、日本に長く住む先輩が後から来日した同じ

国の方に生活ルールなどを教えるというのはとても効果的だと思いました。それと同時に同じ国の人同士でコミュニティを完結させている感じがするので、もっと日本社会に溶け込んでほしいと思います。地域のお祭りの集まりなどにも外国人の方が積極的に参加してくれればもっとよいのではないのでしょうか。また、地域のお年寄りの知恵なども活用して、外国人と日本人の接点が広げられればよいと思います。そうすればもっと外国人が新宿区に愛着を持ってもらえるのではないのでしょうか。

J：韓国語がわからない日本人から見ると、いつも韓国人同士で集まっているように見えると思います。しかし、日本人と韓国人の交流会を実施する時、韓国人は多くの申し込みがあるのですが、日本人の申し込みは少ないです。日本に住む韓国人は日本に興味を持ち、日本人の友達を作りたいと思っています。日本人の友達ができないため韓国人の友達と集まっている人も多いかもしれません。もっと日本人と外国人の交流会を実施していけたらと思います。

A：一緒にできることがあれば、ぜひ今後も情報交換させていただければと思います。

B：先程、教育の課題がでましたが、中国の子どもを大久保小学校に転校させたいという相談を受けたことがあります。大久保小学校に通える範囲の子どもについては、手厚いサポートを受けられますが、それ以外の子どもは受けることができません。特に中学生や小学校高学年の子どもは自分で学習支援の場に通えますが、小学校低学年は自分で行動できません。そういった子どもにとっては学校に入って50時間の適応指導では不十分だと感じています。関心のある外国人の方と外国人を支援する方との情報交換の場がネットワークでもテーマ別に設けることができればよいと思います。一昨年に生涯学習財団で「わくわくしゃべり場」という事業をやっていたので、同じような事業をまた実施するとよいと思います。

また、ネットワークの参加者が情報を共有できるように、ネット上の掲示板かメーリングリストがあればよいと思います。

E：ネットワーク連絡会そのものがイベント企画のことばかり取り上げています。地域の日本人と外国人の間には利害関係があります。日本人は外国人に親切すぎる部分もあると感じます。

まず外国人生活スタート応援事業について企画自体はよいことだと思いますが、形あるものを作るだけで多文化共生が進んでいるという考えではいけないと思います。地域社会と外国人の実情について問題点を検討し、論議が深められる場を作っていただきたいと思います。

防災については、災害時、外国人は本当に助かるのかということ、到底助からないと思います。このような状況について、真剣に考える機会が必要だと思います。

近年、外国人が急増し、地域社会は混雑・混乱を極めているのが現状です。す

すべての関係者、この種の問題について関心がある方々と実情について検討したい  
と思います。

L：ネットワークで集まって、このような外国人へのサポートについて検討する  
ということは、一人の外国人としてはとてもありがたいことだと思っています。し  
かし、地域のなかではやはりホスト住民である日本人のサポートをどのように行  
っていくかが課題になると思います。ホスト住民なしでは多文化共生はできませ  
ん。このような議論はもちろん必要ですが、できることを一つ一つやっていくし  
かないと思います。失敗しても、反省してもう一回やり直せばよいと思います。

また、防災についてですが、外国人は助けられる側という意識が強すぎると思  
います。大久保地域のなかでは、昼間の人口はお年寄りと女性が多く、若い人は  
外国人が多いと思います。その場合、同じ地域に住むパートナーとして、日本人、  
外国人関係なく助け合えるのではないのでしょうか。

外国人は町会に入らないことが多いと思いますが、実際入ってみるとなかなか  
発言や活動がしにくい状況もあります。そのような両面があることを考えて、で  
きることからやっていきましょう。

区：本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。分科会等ご協力いた  
だくことがあると思いますが、よろしく願いいたします。